



発行所 大阪府農業会議 大阪市中央区農人橋2-1-33 JAバンク大阪信連事務センター3階 電話 直通 06(6941)2701~2 http://www.agri-osaka.or.jp 発行人 中谷 清

新理事に4人を補充選任

第156回臨時総会

農業会議は8月18日、大阪市内・JAバンク大阪信連事務センターで第156回臨時総会を開催した。

各市町村農業委員会の改選に伴う理事補充選任について審議した結果、全会一致により承認。新たな理事には、高槻市農委会長の森本茂氏、豊中市農委会長の辻博美氏、交野市農委会長の友田正直氏、堺市農委会長の北

尻芳孝氏が選任された。なお、理事の任期は令和6年6月開催予定の通常総会終結時まで。常設審議委員会終了後の開催のため、当初、議決権行使書の提出を要請する方法での開催を予定していたが、28人の本人出席を含め、会員99人全員(書面表決者71人を含む)の出席となった。

(中島)

加入推進特別対策を決議

全委員で制度周知の徹底

大阪府農業委員会組織は8月21日開催の農委会長・事務局長会議で「農業者年金加入推進特別対策に関する申し合わせ」を決議した。農林水産大臣の指示を受けて(独)農業者年金基金が取り組む「若い農業者及び女性農業者等への周知徹底、加入

者累計15万人早期達成強化運動」に呼応するもの。

7月の改選で就任した農業委員会委員は、今後3年間の任期の中で、長期の運用期間が見込める地域の若手農業者との農業の重要な担い手である女性農業者を重点対象とし、JA・JA

年金の受け取りはJAで



主な記事

- ◎農業会議構成員紹介(2〜5面)
- ◎基本法見直しなど報告法令業務地域計画素案策定に課題
- ◎農委会長・事務局長会議(6面)
- ◎大阪オリジナルぶどう新愛称「虹の雫」に決定(8面)

「農の匠」の会記念式典

30年の道のりを振り返る

大阪府「農の匠」の会設立30周年記念式典が8月1日、KKRホテル大阪で開かれた。会員をはじめ関係機関・団体

など約70人が集い、これまでの道のりを振り返った。農業会議からは中谷会長が出席した。



大阪府農業会議と大阪府農業経営者会議はかねてより指導農業士制度の創設を要請してきた。これを受け、平成5年に大阪府は、優れた農業経営者を行い、地域農業の模範となる指導的農業者を「農の匠」として認定する大阪版指導農業士制度を創設した。

式典のあいさつに立った「農の匠」の会の西野孝仁会長は「大阪農業の発展に向け、引き続き模範になりたい」と力強く語った。(北川)

大阪中央会と連携して農業者年金制度の周知活動に取り組む。新規加入目標は3年間で50人。農業者年金制度は都市部でも活

用できる担い手経営支援策であり、農委組織が一丸となって加入推進に取り組む必要がある。(田村)

風速計

テレビのクイズ番組が「都会の人はなぜ冷たいのか」、理由は「過剰な情報を処理できず身を守るための無関心」と放映していた。インターネットの普及で地方との差は縮小しているが、情報の氾濫は都会の方が圧倒的だ。◆ところで、基本法見直しの中間取りまとめを読むと、情勢分析は微に入り細に入り実に丁寧であるが、これからの日本農業が目指すべき方向では、情報が多過ぎるのか、多岐にわたるのか、しつくりこない◆食料安全保障をどう具体化するのか。◎戦略、輸出強化、重要業績指標(KPI)云々より、農産物の市場開放を許してきた日本の経済政策を改め、先進欧米各国が半世紀以上も前から進めてきた「食料自給率向上」に舵をきるのか◆「無関心」を身につけている都会の人たちに「食料・農業・農村」の重要性が届くことを祈る。(鈴木)